

J O C S 祈りの花束

2021年1月

今月のことば: 一粒の砂の重さとたくさんの金の重さが比べものにならないように、神にとって、公正な裁きの要求はその憐れみに比べると取るに足りないものなのです。(シリアの聖イサク 七世紀)

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT
					1 新しい年、JOCSの働きがますます祝福され、み旨に沿うものとなりま すように	2 JOCSワーカーの派遣先団体と協働プロジェクトのパートナーに、今年、神さまの導きが豊かにありますように
3 畑野会長、大友常務理事、森田事務局長のため	4 新型コロナウイルスによって困難な状況におかれている方々、そして対応に関わるすべての保健医療従事者のため	5 事務局スタッフのため(本日、仕事始め)	6 冬期募金のため	7 オンライン報告会の普及のため	8 JOCSの会員のため(特に海外の会員のため。現在10名)	9 会員・支援者の増強のため
10 会報誌「みんなで生きる」のため	11 若い会員のため。青年会員の増強のため(本日、成人の日)	12 地区JOCSの働きのため	13 アナンダバン病院・タンセン病院・オカルドウンガ病院のため(ネパール)(感染症に関する緊急医療活動支援先)	14 岩本直美ワーカーのため(バングラデシュ)	15 遺贈による寄付の普及のため	16 ママ・ナ・ムトプロジェクト(協働プロジェクト)のため(タンザニア)
17 被災者とその方々の支援に長年従事する方々のため(本日、阪神淡路大震災記念日)	18 地区ボランティア活動委員会のため(本日、委員会開催)	19 JOCSが教会一致のために貢献できるように(18日~25日:キリスト教一致祈禱週間*1)	20 雨宮春子さんのため(タンザニア・現在国内で活動中)	21 ラルシュ・マイメンシンのため(岩本直美さん派遣先)	22 使用済み切手収集活動のため(明日、JOCS切手の日)	23 理事会のため(本日、定例理事会を開催)
24 JOCSに協力するボランティアの方々のため(自宅待機中)	25 JOCSの奨学生のため(特にタンザニアの奨学生のため。現在24名)	26 JOCSの財務のため(本日、会計監査)	27 「古本募金」「つながる募金」の普及のため	28 シロアムプロジェクト(協働プロジェクト)のため(ケニア)	29 ハンセン病を患う人々のため。予防、治療、啓発に関わる人々のため(本日、世界救いの日*2)	30 新しいワーカーが与えられるように
31 ワーカーの安全のためバングラデシュの治安のため	*1: Week of Prayer for Christian Unity: 世界規模のイベントで、今年のテーマは「わたしの愛にとどまりなさい。そうすれば豊かな実を結ぶ」(ヨハネ 15.5-9) 今年の祈りの式文は、フランスにある超教派の女子修道会「グランシャン共同体」が準備した。日本でもそれに基づいて祈りの集会が開催される。 *2: World Leprosy Day					



みことばの黙想 2021年 1月

これらの短いみことばは、フランスにある超教派男子修道共同体テゼの昼の祈りから取られたものです。

より深くみことばを味わいたい方は、出典箇所を参照して文脈のなかでみことばを黙想なさってください。

聖書本文は、原則として『聖書 新共同訳』日本聖書協会発行をもとにしています。

1日（金） 1ペトロ 3:8-17

悪をもって悪に、侮辱をもって侮辱に報いてはなりません。かえって祝福を祈りなさい。祝福を受け継ぐためにあなたがたは召されたのです。

2日（土） 申命記 31:1-8

モーセは言った。「強く、また雄々しくあれ。あなたの神、主は、あなたと共に歩まれる。あなたを見放すことも、見捨てられることもない。」

3日（日） マタイ 2:1-12

学者たちはその星を見て喜びにあふれた。家に入ってみると、幼子は母マリアと共におられた。彼らはひれ伏して幼子を拝んだ。

4日（月） マタイ 20:24-28

イエスは言われた。「人の子は、仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人を自由にしようとする自分の命を献げるためである。」

5日（火） ローマ 7:4-6

パウロは記す。「わたしたちは、自分を縛っていた律法に対して死んだ者となり、律法から解放されています。その結果、霊に従う新しい生き方で仕えるようになっているのです。」

6日（水） マタイ 13:44-46

† 主の公現

イエスは言われた。「天の国は次のようにたとえられる。畑に宝が隠されている。見つけた人は、そのまま隠しておき、喜びながら帰り、持ち物をすっかり売り払って、その畑を買う。」

7日（木） 列王記上 19:8b-13a

エリヤは神の山で主の言葉を待った。そのとき、非常に激しい風が起こった。しかし、風の中に主はおられなかった。風の後に地震が起こった。しかし、地震の中にも主はおられなかった。地震の後に火が起こった。しかし、火の中にも主はおられなかった。火の後に、静かにささやく声がきこえ、主はエリヤに語られた。

8日（金） エフェソ 2:1-10

あなたがたは、恵みにより、信仰によって救われました。このことは、自らの力によるのではなく、神の賜物です。

9日（土） イザヤ 49:22-25

主は言われる。「あなたは知るようになる。わたしは主であり、わたしに望みをおく者は失望することがない。」

10日（日） マルコ 1:6-11

イエスが洗礼を受けられたとき、天から声が聞こえた。「あなたはわたしの愛する子、わたしの心に適（かな）うもの。」

11日（月） 申命記 26:1-11

わたしたちが先祖の神、主に助けを求めると、主はわたしたちの声を聞き、わたしたちの受けた苦しみと労苦と虚げを御覧になり、わたしたちを奴隷の地から導き出されました。

12日（火） イザヤ 30:18-21

イザヤは言った。「あなたを導かれる方は、もはや隠れておられることなく、あなたの目は常に、あなたを導かれる方を見る。あなたの耳は、背後から語られる言葉を聞く。「これが行くべき道だ、ここを歩け。」

13日（水） ヨハネ 8:12

イエスは言われた。「わたしは世の光である。わたしに従う者は暗闇の中を歩かず、命の光を持つ。」

14日（木） コロサイ 1:17-20

キリストはその体である教会の頭（かしら）です。御子は初めの者、死者の中から最初に生まれた方です。神は、御心のままに、満ちあふれるものを余すところなく御子の内に宿らせられたからです。

15日（金） ホセア 14:2-9

主は言われる。「わたしは背く彼らをいやし、喜んで彼らを愛する。」

16日（土） 1テサロニケ 2:1-13

パウロは記す。「わたしたちは絶えず神に感謝しています。なぜなら、わたしたちから神の言葉を聞いたとき、あなたがたは、それを人の言葉としてではなく、神の言葉として受け入れたからです。事実、それは神の言葉であり、あなたがたの中に現に働いています。」

17日（日） ヨハネ 1:35-42

イエスは最初の弟子たちに言われた。「何を求めているのか。」彼らが「先生、どこに泊っておられるのですか」と言うと、イエスは言われた。「来なさい。そうすれば分かる。」

18日（月） ゼカリヤ 8:11-17

主は言われる。「わたしがあなたがたを救い出すのであなたがたは祝福となる。恐れてはならない。」

19日（火） 1テモテ 2:1-8

神は唯一であり、神と人との間の仲介者も、人であるキリスト・イエスただおひとりなのです。この方は、すべての人のために御自身を献（ささ）げられました。

20日（水） ヨハネ 3:22-36

御父は御子を愛して、その手にすべてをゆだねられた。御子を信じる人は永遠の命を得る。

21日（木） 1ヨハネ 5:18-21

ヨハネは記す。「わたしたちは真実な方の内に、その御子イエス・キリストの内にいるのです。この方こそ、真実の神、永遠の命です。」

22日（金） 2テサロニケ 3:1-5

パウロは記す。「主は真実な方です。あなたがた強め、悪い者から守ってください。」

23日（土） ルカ 6:36-38

イエスは言われた。「あなたがたの父が憐れみ深いように、あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。人を裁くな。そうすれば、あなたがたも裁かれることがない。」

24日（日） マルコ 1:16-20

イエスは、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、シモンとシモンの兄弟アンデレが湖で網を打っているのを御覧になった。彼らは漁師だった。イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしよう。」

25日（月） ローマ 4:18-25

パウロは記す。「アブラハムは、希望するすべもなかったときに、なおも望みを抱いて、信じ、神は約束したことを実現させる方だと、確信していたのです。」

26日（火） ルカ 5:29-32

イエスは言われた。「医者が必要とするのは、健康な人ではなく病人である。わたしが来たのは、正しい人を招くためではなく、罪人を招いて悔い改めさせるためである。」

27日（水） エレミヤ 32:37-41

主は言われる。「彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。わたしは彼らに恵を与えてやまない。わたしを信頼する心を彼らに与え、わたしから離れることのないようにする。」

28日（木） 1コリント 1:1-9

パウロは記す。「あなたがたがキリスト・イエスによって神の恵みを受けたことについて、いつもわたしの神に感謝しています。」

29日（金） フィリピ 2:1-11

自分を無にして、僕（しもべ）の身分になり、キリストは人間と同じ者になられました。へりくだって死に至るまで、それも十字架の死に至るまで従順でした。このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。

30日（土） マタイ 11:28-30

イエスは言われた。「わたしのもとに来なさい。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛（くびき）を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。」

31日（日） マルコ 1:21-28

イエスは、安息日に会堂に入って教え始められた。人々はその教えに非常に驚いた。律法学者のようにではなく、権威ある者としてお教えになったからである。